

8.1.9 スポーツ活動

(1) 調査事項

調査事項は、表 8.1.9-1 に示すとおりである。

表 8.1.9-1 調査事項

区 分	調査事項
予測した事項	・スポーツ施設の充足、スポーツ活動の状況
予測条件の状況	・東京 2020 大会に伴い整備されるスポーツ施設数 ・2013 年度（平成 25 年度）以降の計画や取組状況
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都は、東京 2020 大会の競技会場として、東京アクアティクスセンター、海の森水上競技場、有明アリーナ、カヌー・スラロームセンター、大井ホッケー競技場及び夢の島公園アーチェリー場の 6 施設を新たに整備し、大会後には体育・スポーツ及びレクリエーションの普及振興を図り、都民の心身の健全な発達に寄与するための施設となる。 ・障害のある方が気軽にスポーツやレクリエーションを楽しめるよう障害者専用スポーツの施設である東京都障害者総合スポーツセンター及び東京都多摩障害者スポーツセンターをリニューアルオープンした。リニューアルオープンに当たっては、開所式を開催するとともに、開所式の後には、障害のある人もない人も参加できるスポーツ教室、大会等を実施している。 ・東京都では、東京 2020 大会等に向け都立スポーツ施設が改修・休館していく中であっても、都民のスポーツ環境を維持できるよう、「TOKYO スポーツ施設サポーターズ事業」を実施し、大学・企業等の協力を得ながら、都民の新たなスポーツ環境の維持に努めている。 ・東京都や組織委員会では、東京 2020 大会を契機とした様々なスポーツイベント、体験プログラム等を実施しており、都民等のスポーツ活動への関心及び意識啓発のための機会を広く提供している。組織委員会では、このような各種イベント等の開催プログラムを「東京 2020 参画プログラム」に掲載することで、東京都と組織委員会で一体的にスポーツイベント等の発信や推進を行っている。 ・東京都では、パラスポーツの応援プロジェクト「TEAM BEYOND」の一環として、企業・団体がパラスポーツ支援への関わりを考える機会を設けることを通じ、パラスポーツが 2020 年(令和 2 年)以降も社会に根付く土壌をつくることを目的として、企業・団体向けセミナー・交流会「BEYOND CONFERENCE」を開催した。 ・東京都では、従業員のスポーツ活動の促進に向けて優れた取組やスポーツ分野における支援を実施している企業等を「東京都スポーツ推進企業」として認定するとともに、認定企業の取組を紹介し、企業におけるスポーツ活動を促進することを目的に「取組事例集」を作成・公表している。 ・組織委員会は、都内の小中高生を中心に東京 2020 大会の観戦機会が得られるように子供の観戦促進に向けて「学校連携観戦プログラム」を進めている。 ・東京都及び組織委員会では、東京都や競技会場が所在する関係自治体等に東京 2020 ライブサイトを設置し、競技会場外で誰もが大型スクリーンを利用した競技中継等を通じて競技観戦を楽しみ、大会の感動と興奮を共有できる機会を提供する。 ・組織委員会では、「東京 2020 大会 コミュニティライブサイトガイドライン」や「パブリックビューイング・ガイドライン」を策定し、コミュニティライブサイトの設置を計画している自治体等の支援を行うほか、パブリックビューイングの設定に当たっての支援を行う。

(2) 調査地域

調査地域は、東京都内とした。

(3) 調査手法

調査手法は、表 8.1.9-2 に示すとおりである。

表8.1.9-2 調査手法

調査事項		スポーツ施設の充足、スポーツ活動の状況
調査時点		開催前から開催中とした。
調査期間	予測した事項	開催前から開催中とした。
	予測条件の状況	開催前から開催中とした。
	ミティゲーションの実施状況	開催前から開催中とした。
調査地点	予測した事項	東京都内とした。
	予測条件の状況	東京都内とした。
	ミティゲーションの実施状況	東京都内とした。
調査手法	予測した事項	「大会後のレガシーを見据えた東京都の取組」（令和3年7月 東京都オリンピック・パラリンピック準備局）や「東京2020大会振り返り」（令和3年12月 組織委員会）等の既存資料等により、スポーツ施設の充足、スポーツ活動の状況の整理による方法とした。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び「大会後のレガシーを見据えた東京都の取組」（令和3年7月 東京都オリンピック・パラリンピック準備局）や「東京2020大会振り返り」（令和3年12月 組織委員会）等の関連資料の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び「スポーツTOKYOインフォメーション TOKYOスポーツ施設サポーターズ事業」（2021年11月19日参照 東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ）や「東京2020大会振り返り」（令和3年12月 組織委員会）等の関連資料の整理による方法とした。

(4) 調査結果

1) 調査結果の内容

ア. 予測した事項

(ア) スポーツ施設の充足

東京都は、東京 2020 大会の競技会場として、東京アクアティクスセンター、海の森水上競技場、有明アリーナ、カヌー・スラロームセンター、大井ホッケー競技場及び夢の島公園アーチェリー場の6施設を新たに恒久施設として整備した。これらの恒久施設は、図 8.1.9-1 に示すとおり、大会後には体育・スポーツ及びレクリエーションの普及振興を図り、都民の心身の健全な発達に寄与するための施設として将来にわたり有効に活用していく。

これらの東京都が新たに整備した6施設の恒久施設については、「Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドライン」（平成 29 年 3 月 組織委員会）や設計段階で障害のある方や学識経験者等から意見を聴取するために東京都が設置した「アクセシビリティ・ワークショップ」を踏まえ、障害の有無に関わらず全ての人々にとって利用しやすい施設となるよう整備した。

また、東京都は、東京 2020 大会終了後、図 8.1.9-2 に示すとおり、臨海副都心・有明北地区を「有明レガシーエリア」とし、スポーツ、文化等による賑わいを創出していくこととしている。東京 2020 大会で使用した仮設スポーツ施設等を活用したアーバンスポーツゾーンの形成に向けた検討を進めている。

<p>① 東京アクアティクスセンター</p> <p>◆日本水泳の中心となる 世界最高水準の水泳場</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の主要な国際大会を開催 ・水泳の裾野拡大と世界を目指すアスリートを育成 <p>(2020年2月竣工)</p>	<p>② 海の森水上競技場</p> <p>◆アジアの水上競技の拠点</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・水上スポーツ体験の機会提供等による水上競技の裾野拡大 ・ユニークベニューとして、イベント会場としても活用 <p>(2019年5月竣工)</p>
<p>③ 有明アリーナ</p> <p>◆東京の新たなスポーツ・文化の拠点</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・コンセッション方式による管理運営 ・5GやARなどの最先端技術を活用したイベント等も開催 <p>(2019年12月竣工)</p>	<p>④ カヌー・スラロームセンター</p> <p>◆国内初の人工スラロームコースを活用した様々な水上スポーツ・レジャーを楽しめる施設</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・安定した競技環境の下でアスリートを強化・育成 <p>(2019年5月竣工)</p>
<p>⑤ 大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場</p> <p>◆ホッケーをはじめ、様々なスポーツで利用できる多目的競技場</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・公園内の他施設と連携し、総合的なスポーツ・レクリエーションの拠点を形成 <p>(2019年6月竣工)</p>	<p>⑥ 夢の島公園アーチェリー場</p> <p>◆アーチェリーを中心として、多様な用途に活用</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・芝生広場として多様な活用を図り、夢の島公園と一体となり、都民に憩いの場を提供 <p>(2019年2月竣工)</p>

出典：「大会後のレガシーを見据えた東京都の取組」（令和 3 年 7 月 東京都オリンピック・パラリンピック準備局）

図 8.1.9-1 東京都が新たに整備した競技会場



出典：「大会後のレガシーを見据えた東京都の取組」（令和3年7月 東京都オリンピック・パラリンピック準備局）

図 8.1.9-2 有明レガシーエリアのイメージ

また、障害のある方が気軽にスポーツやレクリエーションを楽しめるよう障害者専用スポーツの施設である東京都障害者総合スポーツセンター及び東京都多摩障害者スポーツセンターの設備を改修し、障害者アスリートのトレーニング環境の充実を図り2019年(令和元年)7月及び2019年(令和元年)6月にリニューアルオープンした。両施設では、大会、スポーツ教室、イベント、健康スポーツ相談等が実施されている。

表 8.1.9-3 東京都障害者総合スポーツセンター及び東京都多摩障害者スポーツセンターの施設概要

区分	東京都障害者総合スポーツセンター	東京都多摩障害者スポーツセンター
体育施設	体育館、多目的室、トレーニング室、卓球室・サウンドテーブルテニス室、洋弓場、プール、運動場、庭球場	体育館、トレーニング室、プール、卓球室、サウンドテーブルテニス室
文化施設	集会室、研修室、印刷室、図書コーナー	集会室、印刷室、録音室
その他	宿泊施設	宿泊施設

出典：「東京都障害者総合スポーツセンター 施設案内」（2021年11月12日参照 東京都障害者総合スポーツセンターホームページ）

<https://tsad-portal.com/mscd/facility/information>

「東京都多摩障害者スポーツセンター 施設案内」（2021年11月12日参照 東京都多摩障害者スポーツセンターホームページ）

<https://tsad-portal.com/tamaspo/facility/information>

東京都は、東京2020大会等に向け都立スポーツ施設が改修・休館していく中、2018年(平成30年)4月より「TOKYOスポーツ施設サポーターズ事業」を実施し、表8.1.9-4に示すとおり大学・企業等の協力を得ながら、都民のスポーツ環境の維持に努めてきた。

表 8.1.9-4 TOKYO スポーツ施設サポーターズ

区分	施設名
大学	東京都立大学（南大沢・日野・荒川キャンパス） 東京大学（検見川総合運動場） 上智大学（真田堀運動場） 東京医科歯科大学（湯島キャンパス） 山野美容芸術短期大学（山野治一記念講堂）
企業	日本郵政株式会社（高井戸レクリエーションセンター） 東京海上日動火災保険株式会社（多摩テニスコート） 公益財団法人三菱養和会（巣鴨スポーツセンター、調布グラウンド） 一般社団法人全国農業協同組合中央会（JA全国教育センター） 株式会社CAC Holdings（CAC ボッチャコート）
健康保険組合	東京健保組合大宮運動場（大宮けんぽグラウンド） 出版健康保険組合（健康増進センターすこやかプラザ） 東京都職員共済組合（清瀬運動場）

出典：「スポーツ TOKYO インフォメーション TOKYO スポーツ施設サポーターズ事業」（2021年11月19日参照 東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ）
https://www.sports-tokyo-info.metro.tokyo.lg.jp/facility-supporters/index.html#facility_supporters_overview

(イ) スポーツ活動の状況

a. 東京 2020 大会を契機としたスポーツイベント等による機会の提供

東京都は、東京 2020 大会に向けて、パラリンピックの魅力を広く知っていただくため、表 8.1.9-5 に示すとおり 2015 年度（平成 27 年度）から東京都パラリンピック体験プログラム「NO LIMITS CHALLENGE」を都内各地で展開してきた。「NO LIMITS CHALLENGE」では、区市町村や都各局等が主催する広く都民が集まるイベントに、パラリンピック競技の体験、アスリートによるトークショー、競技紹介パネル・映像・競技用具の展示等、パラリンピックの魅力を体験できるプログラムを東京都が提供した。また、表 8.1.9-6 に示すとおり「NO LIMITS CHALLENGE」の特別版である「NO LIMITS SPECIAL」を計 4 回実施し、パラリンピック競技やアスリートの魅力を発信した。

表 8.1.9-5 「NO LIMITS CHALLENGE」の体験プログラム実施数

項目	2015 年度 (平成 27 年度)	2016 年度 (平成 28 年度)	2017 年度 (平成 29 年度)	2018 年度 (平成 30 年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和 2 年度)	2021 年度 (令和 3 年度)
体験プログラム 実施数（単年）	20	37	36	35	34	1	4

注) 雨天等による中止除く

表 8.1.9-6 「NO LIMITS SPECIAL」の開催状況

開催日	名称	競技体験種目	参加人数
2016 年(平成 28 年) 5 月 2 日	NO LIMITS SPECIAL GINZA & TOKYO	陸上競技、ボッチャ、5 人制サッカー、パワーリフティング、車いすバスケットボール、車いすラグビー	約 22,000 人
2017 年(平成 29 年) 5 月 6 日、7 日	NO LIMITS SPECIAL 2017 上野	陸上競技、ボッチャ、5 人制サッカー、ゴールボール、柔道、パワーリフティング、テコンドー、車いすバスケットボール、車いすラグビー、車いすテニス	約 52,000 人
2018 年(平成 30 年) 5 月 5 日、6 日	NO LIMITS SPECIAL 2018 東京丸の内	陸上競技、ボッチャ、5 人制サッカー、ゴールボール、柔道、パワーリフティング、卓球、テコンドー、車いすバスケットボール、車いすラグビー等	約 55,000 人
2020 年(令和 2 年) 1 月 11 日、12 日	NO LIMITS SPECIAL 2020	陸上競技、ボッチャ、カヌー、パワーリフティング、ボート、車いすラグビー等	約 46,000 人



(東京都撮影)

写真 8.1.9-1 「NO LIMITS SPECIAL 2020」の開催の様子

また、東京都では、パラスポーツを通じて、みんなが個性を発揮できる未来を目指す TOKYO 発のチームである「TEAM BEYOND」のウェブサイトでメンバーを募集し、登録者（企業・団体登録数 410 団体、登録者数約 140 万人超（2022 年（令和 4 年）2 月末時点））に対し競技大会等の情報発信を行い、競技会場での観戦・応援やイベント等への参加を促進してきた。「TEAM BEYOND」のウェブサイトのイベントスケジュールでは、区市町村や競技団体主催の大会情報など様々なパラスポーツの大会・イベント情報を掲載したほか、スポーツを愛する全ての人々が、障害の有無にかかわらず、スポーツを楽しむことのできる社会の実現を目指し、競技・アスリートの魅力や会場観戦の楽しさを「Be The HERO」、 「FIND YOUR HERO」等の普及啓発映像を通して発信してきた。



出典：TEAM BEYOND パラスポーツ普及啓発映像「Be The HERO」

図 8.1.9-3 ウェブサイトに掲載されている普及啓発映像の例

組織委員会では、東京 2020 大会の開催までに全 55 競技を体験するプロジェクトである東京 2020 Let's 55 を主催し、表 8.1.9-7 に示すとおり 2018 年(平成 30 年)から 2019 年(令和元年)にかけて計 8 回のイベントを開催した。さらに、2020 年(令和 2 年)10 月には、東京 2020 Let's 55 Virtual Experience として、アスリート視点の景色を体感できる VR 動画をウェブサイト上に公開し、東京 2020 大会で実施される競技やアスリートをより身近に感じられるような取組を行い、東京 2020 大会が 1 年延期となった期間に観客への継続的なエンゲージメント機会を創出した。

表 8.1.9-7 東京 2020 Let's 55 の開催状況

開催日	主催/共催	体験競技
2018 年(平成 30 年) 8 月 16 日～19 日	組織委員会/ 三井不動産(株)	[オリンピック]スケートボード/サッカー/カヌー/テコンドー/バレーボール/セーリング/アーチェリー/体操/空手/スポーツクライミング/ラグビー/陸上競技 [パラリンピック]カヌー/パワーリフティング/テコンドー/ボッチャ/陸上競技/5 人制サッカー/アーチェリー/水泳
2018 年(平成 30 年) 10 月 21 日	組織委員会/ 青山スポーツフェス 2018 実行委員会	[オリンピック]陸上競技/野球・ソフトボール/バスケットボール/ボクシング/自転車競技/フェンシング/体操/トライアスロン/ホッケー/ラグビー [パラリンピック]陸上競技/トライアスロン/車いすバスケットボール/車いすフェンシング
2019 年(平成 31 年) 3 月 24 日	組織委員会/ 福島県	[オリンピック]野球・ソフトボール/自転車競技/フェンシング/サッカー/体操/ラグビー/スポーツクライミング [パラリンピック]ボッチャ/卓球/車いすテニス
2019 年(平成 31 年) 3 月 30 日～31 日	組織委員会/ 野村ホールディングス(株)	[オリンピック]野球・ソフトボール/自転車競技/フェンシング/体操/空手/スポーツクライミング/バレーボール [パラリンピック]陸上競技/ボッチャ/5 人制サッカー/シットイングバレーボール/車いすバスケットボール
2019 年(令和元年) 5 月 3 日～5 日	組織委員会/ 三井不動産(株)	[オリンピック]スポーツクライミング/バスケットボール/野球・ソフトボール/空手/自転車競技/テコンドー/ハンドボール/ウエイトリフティング/サッカー/バレーボール [パラリンピック]車いすバスケットボール/ボッチャ/水泳/テコンドー
2019 年(令和元年) 7 月 24 日	組織委員会	[オリンピック]バスケットボール(3x3 バスケットボール)/アーチェリー/体操(体操競技、新体操、トランポリン)/陸上競技/バドミントン/野球・ソフトボール/自転車競技(BMX レーシング、ロード、トラック)/フェンシング/ゴルフ/ハンドボール/ホッケー/柔道/空手(組手)/ラグビー/テニス/バレーボール/ウエイトリフティング
2019 年(令和元年) 8 月 24 日	組織委員会/墨田区	[パラリンピック]アーチェリー/陸上競技/ボッチャ/自転車競技トラック/ゴールボール/柔道/パワーリフティング/シットイングバレーボール/水泳/卓球/テコンドー/トライアスロン/車いすバスケットボール/車いすフェンシング/車いすテニス
2019 年(令和元年) 10 月 19 日～20 日	組織委員会/ 野村ホールディングス(株)	[オリンピック]野球・ソフトボール/自転車競技/バレーボール/バドミントン/ゴルフ [パラリンピック]陸上競技/ボッチャ/ゴールボール

出典：「東京 2020 Let's 55」(2021 年 2 月 1 日参照 組織委員会ホームページ)

<https://tokyo2020.org/jp/special/lets55>

「東京 2020 Let's 55 ～レッツゴーゴー～ with 三井不動産」開催(2021 年 2 月 1 日参照 三井不動産(株))

https://www.mitsui-fudosan.co.jp/corporate/news/2018/0807_02/

「東京 2020 Let's 55 ～レッツゴーゴー～ with 三井不動産」開催(2021 年 2 月 1 日参照 三井不動産(株))

<https://www.mitsui-fudosan.co.jp/corporate/news/2019/0404/>

「東京 2020 Let's 55 ～レッツゴーゴー～ with 青山スポーツフェス」を共催(2021 年 2 月 1 日参照 大日本印刷(株))

https://www.dnp.co.jp/news/detail/1190363_1587.html

「日本最大規模の「東京五輪音頭-2020-」演舞イベントの主催、および東海地方初、史上最大規模の東京 2020 競技体験イベントの共催について」(2021 年 2 月 1 日参照 野村ホールディングス(株))

<https://www.nomuraholdings.com/jp/news/nr/holdings/20190924/20190924.pdf>

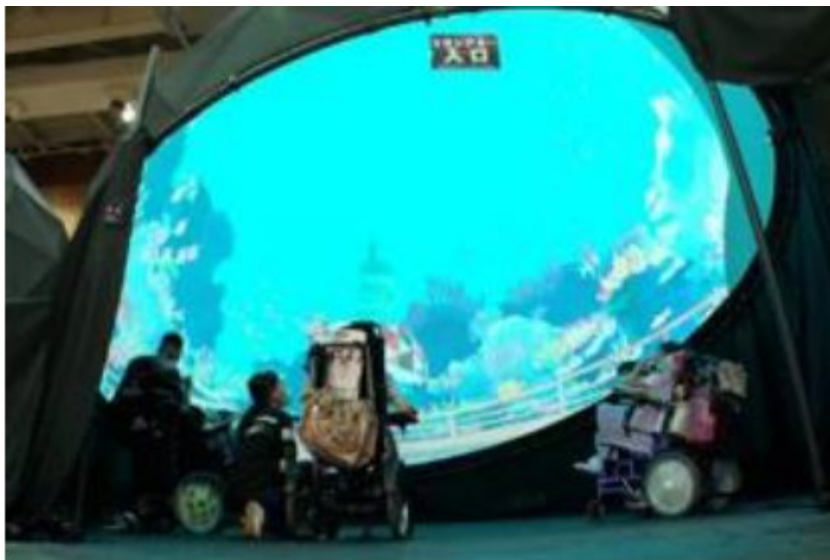
また、組織委員会では、東京 2020 大会の大会ビジョンのもと、スポーツ等、参加者自らが体験・行動し、レガシーを形成することで未来につながるプログラムである「東京 2020 参画プログラム」を展開した。組織委員会では、このような各種イベント等の開催プログラムを「東京 2020 参画プログラム」として認証することで、スポーツイベント等の発信や推進を行った。東京 2020 大会が終了するまでの期間に「東京 2020 参画プログラム」に

は、約 1,900 件のスポーツに関するイベントが掲載され、これらのイベントに延べ約 600 万人が参加¹した。

東京 2020 大会期間中には、東京都では、東京スポーツスクエアにおいて、大会関連のパネルや動画、シティキャストからの応援メッセージの展示等を行い、東京大会の魅力を発信した。東京スポーツスクエアには、オリンピック期間で約 28,000 名、パラリンピック期間で約 11,000 名の施設利用者が来訪した。その他、パラリンピックギャラリー銀座を開設し、競技体験、大会情報パネル、アスリートの映像や写真展示など、様々な企画を実施した。また、組織委員会では、パラ競技を中心にスポーツ体験コーナー等のコンテンツを設置した 2020 FAN PARK / 2020 FAN ARENA を都内在住者かつ人数を限定して公開し、13 日間で約 38,000 人の来場者があった。

b. 東京 2020 大会の観戦機会の提供

東京都では、2016 年度(平成 28 年度)から都内全ての公立学校で実施している「東京都オリンピック・パラリンピック教育」の集大成として、都内の学校の子供たちが、東京 2020 大会の競技を、学校単位で直接観戦する機会を提供する学校連携観戦プログラムを計画し、観戦を希望する都内の全公立・私立学校に広く観戦の機会を提供する予定であった。その後の新型コロナウイルスの感染拡大の状況を踏まえ、観戦前後の健康観察、PCR 検査を受けられる機会の提供、貸切バスの利用、観客席における十分な距離の確保など、感染防止対策を徹底して実施し、都内 9 会場で 140 校 10,543 人の幼児・児童・生徒が参加した。また、最新テクノロジーを使用し、競技会場にいるような疑似体験ができるバリアフリー VR 観戦を特別支援学校で実施し、13 校の児童・生徒 296 人が観戦した。



出典：「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会 開催結果」(令和 3 年 12 月 24 日オリンピック・パラリンピック特別委員会資料)

写真 8.1.9-2 VR シアターでの 360° 映像視聴

¹ 東京2020大会が終了した2021年(令和3年)9月6日時点における「東京2020参画プログラム」の掲載情報から、参画プログラムの8つのテーマの内の「スポーツ・健康」について抽出した件数及び参加人数を示す。

東京都及び組織委員会では、東京都や競技会場が所在する関係自治体等の 19 自治体 30 会場に東京 2020 ライブサイトを設置し、競技会場外で誰もが大型スクリーンを利用した競技中継等を通じて競技観戦を楽しみ、大会の感動と興奮を共有できる機会を提供する計画であった。また、組織委員会では、「東京 2020 大会 コミュニティライブサイトガイドライン」や「パブリックビューイング・ガイドライン」を策定し、コミュニティライブサイトの設置を計画している自治体等の支援を行うほか、パブリックビューイングの設定に当たっての支援を行い、東京 2020 大会の延期前の時点で 145 自治体 227 会場でのコミュニティライブサイトの申請があった。

その後の新型コロナウイルスの感染拡大の状況を踏まえ、都内の東京 2020 ライブサイトは競技中継を中止し、デジタル技術を活用した大会の盛り上げに転換となり、自治体等が開催するコミュニティライブサイトやパブリックビューイングについても観客以外の人流対策として、多くの自治体等が中止又は規模を縮小した。

東京 2020 大会期間中のライブサイトやパブリックビューイングの実施状況は、表 8.1.9-8 に示すとおりであり、実施した自治体等は、コロナ対策の徹底に努めるとともに、大声を出さないよう、拍手や音出しグッズでの応援観戦やプラネタリウムでの「臨場感 LIVE ビューイング」映像体験など、各会場で工夫を凝らし来場者と一体となって大会を盛り上げた。

また、東京都では、集客型のライブサイト・イベント等の見直しを行い、特設 WEB サイト「みんなの東京 2020 応援チャンネル」及び「東京都パラリンピック応援サイト」を開設し、デジタルを活用した情報発信を行うなど、オンラインでの応援施策を実施した。これらの WEB サイトを通じたオンライン配信番組・動画の視聴数累計は約 300 万回（7/20～9/6）であり、ライブサイト・パブリックビューイングの都内来場者想定数 285 万人を上回る水準であった。

表 8.1.9-8 ライブサイトやパブリックビューイングの実施状況

区分	オリンピック期間	パラリンピック期間
東京 2020 ライブサイト	4 自治体 3 会場 ・ 山中湖交流プラザきらら （山中湖村） ・ JR 御殿場駅富士山口広場 （静岡県・御殿場市） ・ 裾野市須山地区研修センター （静岡県・裾野市）	—
コミュニティライブサイト	12 自治体 15 会場	1 自治体 1 会場
パブリックビューイング	24 自治体、24 団体 50 会場	4 自治体、8 団体 12 会場

出典：「東京 2020 大会振り返り」（令和 3 年 12 月 組織委員会）を一部加筆

イ. 予測条件の状況

(ア) 東京 2020 大会に伴い整備されるスポーツ施設数

東京 2020 大会の競技会場として、当初計画とおり 6 施設を新たに恒久施設として整備したほか、障害者スポーツの 2 施設の設備を改修し、当初計画とおりリニューアルオープンした。

また、2018 年（平成 30 年）以降、「TOKYO スポーツ施設サポーターズ事業」を継続的に実施した。

(イ) 2013 年度（平成 25 年度）以降の計画や取組状況

東京都や組織委員会による 2013 年度（平成 25 年度）以降の計画や取組は、表 8.1.9-9 に示すとおりである。

表 8.1.9-9 東京都や組織委員会の計画や取組

区分	計画や取組内容
東京 2020 大会を契機としたスポーツイベント等による機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都パラリンピック体験プログラム「NO LIMITS CHALLENGE」を展開 ・「NO LIMITS CHALLENGE」の特別版である「NO LIMITS SPECIAL」を開催 ・パラスポーツ応援プロジェクト「TEAM BEYOND」を展開 ・東京 2020 大会の全 55 競技を体験するプロジェクト「東京 2020 Let's 55」を開催 ・スポーツに関する各種イベント等の開催プログラムを「東京 2020 参画プログラム」に掲載して情報発信 ・大会期間中の東京スポーツスクエアや 2020 FAN PARK / 2020 FAN ARENA の開設により大会情報の発信やスポーツ体験機会の創出
東京 2020 大会の観戦機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・学校連携観戦プログラムによる観戦機会の提供 ・東京 2020 ライブサイトによる観戦機会の提供 ・自治体等のコミュニティライブサイトやパブリックビューイング実施の支援

2013 年度（平成 25 年度）以降のこれらの計画や取組の多くは、2020 年（令和 2 年）初頭にかけて当初の予定どおり実施されたが、一部については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、以下のように計画や取組が変更となるものがあった。

- ・一部のスポーツイベントが開催中止や延期となったが、集客型からオンライン開催や動画配信等の提供へと転換して実施
- ・学校連携観戦の規模を縮小し、感染防止対策を徹底して実施
- ・都内全ての東京 2020 ライブサイトの競技中継の中止、自治体等が開催するコミュニティライブサイトやパブリックビューイングについても観客以外の人流対策として、多くの自治体等が中止又は規模を縮小した一方、都内全ての東京 2020 ライブサイト等の見直しを行い、デジタル技術を活用した大会の盛り上げに転換

ウ. ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.1.9-10(1)～(10)に示すとおりである。

表 8.1.9-10(1) ミティゲーションの実施状況

<p>ミティゲーション</p>	<p>・東京都は、東京 2020 大会の競技会場として、東京アクアティクスセンター、海の森水上競技場、有明アリーナ、カヌー・スラロームセンター、大井ホッケー競技場及び夢の島公園アーチェリー場の 6 施設を新たに整備し、大会後には体育・スポーツ及びレクリエーションの普及振興を図り、都民の心身の健全な発達に寄与するための施設となる。</p>
-----------------	---

<p>実施状況</p>	
-------------	--

東京都は、東京 2020 大会の競技会場として、東京アクアティクスセンター、海の森水上競技場、有明アリーナ、カヌー・スラロームセンター、大井ホッケー競技場及び夢の島公園アーチェリー場の 6 施設を新たに恒久施設として整備し、大会後には体育・スポーツ及びレクリエーションの普及振興を図り、都民の心身の健全な発達に寄与するための施設として将来にわたり有効に活用していく。



(東京都撮影)

夢の島公園アーチェリー場完成披露式典
(2019年(平成31年)4月28日)



出典：「海の森水上競技場完成披露式典を開催」(2019年6月18日都政レポート)

海の森水上競技場完成披露式典
(2019年(令和元年)6月16日)



出典：「カヌー・スラロームセンター完成披露式典を開催」(2019年7月9日都政レポート)

カヌー・スラロームセンター完成披露式典
(2019年(令和元年)7月6日)



出典：「大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場完成披露式典」(2019年8月20日都政レポート)

大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場完成披露式典
(2019年(令和元年)8月17日)

表 8.1.9-10(2) ミティゲーションの実施状況

実施状況 (つづき)



出典：「知事の部屋／活動の紹介 有明アリーナ完成披露式典」(2021年11月19日参照 東京都ホームページ)
https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/governor/governor/katsudo/2020/02/02_00.html

有明アリーナ完成披露式典
 (2020年(令和2年)2月2日)



出典：「知事の部屋／活動の紹介 東京アクアティクスセンター完成披露式典」(2021年11月19日参照 東京都ホームページ)
https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/governor/governor/katsudo/2020/10/24_00.html

東京アクアティクスセンター完成披露式典
 (2020年(令和2年)10月24日)

表 8.1.9-10(3) ミティゲーションの実施状況

<p>ミティゲーション</p>	<p>・障害のある方が気軽にスポーツやレクリエーションを楽しめるよう障害者専用スポーツの施設である東京都障害者総合スポーツセンター及び東京都多摩障害者スポーツセンターをリニューアルオープンした。リニューアルオープンに当たっては、開所式を開催するとともに、開所式の後には、障害のある人もない人も参加できるスポーツ教室、大会等を実施している。</p>
<p>実施状況</p>	<p>東京都では、障害のある方が気軽にスポーツやレクリエーションを楽しめるよう障害者専用スポーツの施設である東京都障害者総合スポーツセンター及び東京都多摩障害者スポーツセンターの設備を改修し、障害者アスリートのトレーニング環境の充実を図り 2019 年(令和元年)7 月及び 2019 年(令和元年)6 月にリニューアルオープンした。両施設では、大会、スポーツ教室、イベント、健康スポーツ相談等が実施されている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;">  <p>出典：「東京都障害者総合スポーツセンター・東京都多摩障害者スポーツセンターデジタルパンフレット」 https://tsad-portal.com/wp-content/themes/twentsysixteen_child/movie/20200205-00/book/html5.html#page=1 東京都障害者総合スポーツセンター外観</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>出典：「東京都障害者総合スポーツセンター・東京都多摩障害者スポーツセンターデジタルパンフレット」 https://tsad-portal.com/wp-content/themes/twentsysixteen_child/movie/20200205-00/book/html5.html#page=1 東京都多摩障害者スポーツセンター外観</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">  <p>出典：「東京都障害者総合スポーツセンター開所式」(2019 年 8 月 5 日都政レポート) 東京都障害者総合スポーツセンター開所式 (2019 年(令和元年)7 月 28 日)</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>出典：「東京都障害者総合スポーツセンター・東京都多摩障害者スポーツセンターデジタルパンフレット」 両スポーツセンターHP に掲載されている施設を紹介するパンフレットの抜粋</p> </div> </div>

表 8.1.9-10(4) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション
 ・東京都では、東京 2020 大会等に向け都立スポーツ施設が改修・休館していく中
 にあっても、都民のスポーツ環境を維持できるよう、「TOKYO スポーツ施設サポ
 ーターズ事業」を実施し、大学・企業等の協力を得ながら、都民の新たなスポーツ
 環境の維持に努めている。

実施状況
 東京都は、東京 2020 大会等に向け都立スポーツ施設が改修・休館していく中、2018 年（平成 30 年）4 月
 より「TOKYO スポーツ施設サポーターズ事業」を実施し、大学・企業等の協力を得ながら、都民のスポーツ環
 境の維持に努めてきた。「TOKYO スポーツ施設サポーターズ事業」については、東京都のスポーツに関するポ
 ータルサイトである「スポーツ TOKYO インフォメーション」に掲載し、広く情報発信を行っている。



出典：「知事の部屋／活動の紹介 TOKYO スポーツ施設サポーターズ事業協定締結式」（2021 年 11 月 19 日参照 東京都ホ
 ームページ）https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/governor/governor/katsudo/2020/01/11_01.html

「TOKYO スポーツ施設サポーターズ事業」の最初の協力先となった
 首都大学東京（現 東京都立大学）との協定締結式の様子

TOKYOスポーツ施設サポーターズ事業

大学・企業等のスポーツ施設を
身近なスポーツの場として利用できます。

**TOKYOスポーツ施設
サポーターズ事業とは？**

都民が身近なところでスポーツを実施できる場を確保するとともに、東京
2020大会等に向け都立スポーツ施設が改修・休館していく中においても、
都民のスポーツ環境を維持できるよう、都内の大学・企業等の体育館や
テニスコートなどのスポーツ施設を有償で貸し出していただく事業です。

協力先 今後、協力先は順次拡大していきますので、随時ホームページ等をご覧ください。

大学・企業等	貸出施設名
首都大学東京	南大沢キャンパス(八王子市) 日野キャンパス(日野市) 荒川キャンパス(荒川区)
東京大学	検見川総合運動場・セミナーハウス(千葉県千葉市)
専修大学	神田キャンパス(千代田区)
上智大学	真田運動場(千代田区)
NEW 東京医科歯科大学	湯島キャンパス(文京区)
NEW 山野美容芸術短期大学	山野治一記念講堂(八王子市)
日本郵政株式会社	高井戸レクリエーションセンター(杉並区)
東京海上日動火災保険株式会社	多摩テニスコート(八王子市)
NEW 公益財団法人三養養和会	巣鴨スポーツセンター(豊島区)
NEW 株式会社CAC Holdings	調布グラウンド(調布市)
東京健保組合大宮運動場	CACボッチャコート(中央区)
出版健康保険組合	大宮けんぼグラウンド(埼玉県さいたま市)
東京都職員共済組合	健康増進センターすこやかプラザ(板橋区)
	清瀬運動場(清瀬市)

※各スポーツ施設の概要は裏面をご覧ください。

貸出日など各施設の詳細はホームページをご覧ください！

首都大学東京

南大沢キャンパス(八王子市)
TEL 042-677-2372

日野キャンパス(日野市)
TEL 042-685-8609

荒川キャンパス(荒川区)
TEL 03-3819-1211

専修大学

神田キャンパス(千代田区)
TEL 03-6804-5693

上智大学

真田運動場(千代田区)
TEL 03-3238-3112

NEW 東京医科歯科大学

湯島キャンパス(文京区)
TEL 03-6804-5693

NEW 山野美容芸術短期大学

山野治一記念講堂(八王子市)
TEL 03-6804-5693

NEW 日本郵政株式会社

高井戸レクリエーションセンター(杉並区)
TEL 03-3302-9620

NEW 公益財団法人三養養和会

巣鴨スポーツセンター(豊島区)
TEL 03-6804-5693

NEW 株式会社CAC Holdings

CACボッチャコート(中央区)
TEL 03-6804-5693

東京健保組合大宮運動場

大宮けんぼグラウンド(埼玉県さいたま市)
TEL 048-623-2186

出版健康保険組合

健康増進センター
すこやかプラザ(板橋区)
TEL 03-3559-5181

東京都職員共済組合

清瀬運動場(清瀬市)
TEL 042-492-5445

利用対象者 都内スポーツ団体等 ※各施設で定める要件が異なります。
 ※詳細は下記のホームページをご覧ください。

ホームページ 東京都オリンピック・パラリンピック準備局
 「スポーツTOKYOインフォメーション」内
 TOKYOスポーツ施設サポーターズ事業ページ
<https://www.sports-tokyo.info/facility-supporters/>

問い合わせ先 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団
 TEL 03-6804-5693 受付時間：9時～17時

都内の公立スポーツ施設が簡単に検索できます！
各施設の情報も充実！
 「スポーツTOKYOインフォメーション」
 施設検索 スポーツ施設検索 東京
<https://www.sports-tokyo.info/facility/>

出典：「スポーツ TOKYO インフォメーション TOKYO スポーツ施設サポーターズ事業」（2021 年 11 月 19 日参照 東京都オ
 リンピック・パラリンピック準備局ホームページ）

<https://www.sports-tokyo-info.metro.tokyo.lg.jp/facility-supporters/>

「TOKYO スポーツ施設サポーターズ事業」の情報発信のための広報用チラシ

- 370 -

表 8.1.9-10(5) ミティゲーションの実施状況

<p>ミティゲーション</p>	<p>・東京都や組織委員会では、東京 2020 大会を契機とした様々なスポーツイベント、体験プログラム等を実施しており、都民等のスポーツ活動への関心及び意識啓発のための機会を広く提供している。組織委員会では、このような各種イベント等の開催プログラムを「東京 2020 参画プログラム」に掲載することで、東京都と組織委員会で一体的にスポーツイベント等の発信や推進を行っている。</p>
<p>実施状況</p>	<p>東京都は、東京 2020 大会に向けて、パラリンピックの魅力を広く知っていただくため、2015 年度(平成 27 年度)から東京都パラリンピック体験プログラム「NO LIMITS CHALLENGE」を都内各地で展開したほか、「NO LIMITS CHALLENGE」の特別版である「NO LIMITS SPECIAL」を計 4 回実施し、パラリンピック競技やアスリートの魅力を発信した。</p> <p>組織委員会では、東京 2020 大会が開催までに全 55 競技を体験するプロジェクトである東京 2020 Let's 55 を主催し、2018 年(平成 30 年)から 2019 年(令和元年)にかけて計 8 回のイベントを開催したほか、2020 年(令和 2 年)10 月には、東京 2020 Let's 55 Virtual Experience として、アスリート視点の景色を体感できる VR 動画をウェブサイト上に公開し、東京 2020 大会で実施される競技やアスリートをより身近に感じられるような取組を行った。</p> <p>組織委員会では、「東京 2020 参画プログラム」を展開し、各種イベント等の開催プログラムを「東京 2020 参画プログラム」を認証することで、スポーツイベント等の発信や推進を行った。</p> <p>東京 2020 大会期間中は、東京都では、パラリンピックギャラリー銀座を開設し、競技体験、大会情報パネル、アスリートの映像や写真展示など、様々な企画を実施した。また、組織委員会では、パラ競技を中心にスポーツ体験コーナー等のコンテンツを設置した 2020 FAN PARK / 2020 FAN ARENA を都内在住者かつ人数を限定して公開し、13 日間で約 38,000 人の来場者があった。</p> <div data-bbox="183 1055 730 1417">  <p>(東京都撮影)</p> </div> <p>「NO LIMITS CHALLENGE」の様子</p> <div data-bbox="903 1016 1342 1294">  <p>出典：「いよいよあと 2 年! 「東京 2020Let's 55～レッツゴーゴー～with 三井不動産」で東京 2020 大会の競技を体験しよう!」 (2021 年 10 月 12 日参照 組織委員会ホームページ https://olympics.com/tokyo-2020/ja/paralympics/news/news-20180817-01-ja)</p> </div> <p>東京 2020 Let's 55 の開催状況</p> <div data-bbox="183 1498 730 1912">  <p>(東京都撮影)</p> </div> <p>パラリンピックギャラリー銀座での競技体験(ボッチャ)の様子</p> <div data-bbox="842 1498 1401 1912">  <p>(東京都撮影)</p> </div> <p>2020 FAN PARK / 2020 FAN ARENA の会場</p>

表 8.1.9-10(6) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	<p>・東京都では、パラスポーツの応援プロジェクト「TEAM BEYOND」の一環として、企業・団体がパラスポーツ支援への関わりを考える機会を設けることを通じ、パラスポーツが2020年(令和2年)以降も社会に根付く土壌をつくることを目的として、企業・団体向けセミナー・交流会「BEYOND CONFERENCE」を開催した。</p>
実施状況	<p>東京都では、パラスポーツ応援プロジェクト「TEAM BEYOND」を通じて、東京2020大会を契機に、パラスポーツの社会の認知度を飛躍的に向上させ、パラスポーツが継続して社会に根付く土壌をつくるため、総合的な普及啓発事業を実施しており、会員は企業・団体登録を含め約140万人に到達している(2022年(令和4年)2月末時点)。</p> <p>メンバー向けのTEAM BEYOND観戦会、企業・団体メンバーと連携したパラスポーツの魅力を広く発信するイベント「BEYOND FES」、パラスポーツの魅力を体感できるライブ配信や都民が参加できるボッチャ大会を実施したイベント「BEYOND STADIUM」等の開催により都民のパラスポーツへの興味・関心の向上と関わりへの促進に寄与した。</p> <p>また、東京2020大会開催を契機とした企業・団体のパラスポーツへの関わりへの定着化とパラスポーツ支援のさらなる参画の促進、活性化につなげるため、企業・団体によるパラスポーツ振興の取組の情報発信、セミナー・交流会「BEYOND CONFERENCE」「BEYOND ワークショップ」やオンラインセミナー「TEAM BEYOND シンポジウム」を実施した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>出典：TEAM BEYOND ホームページ</p> <p>観戦会の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>出典：TEAM BEYOND ホームページ</p> <p>「BEYOND PARK 秋葉原」の様子</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>出典：TEAM BEYOND ホームページ</p> <p>企業・団体による取組の情報発信</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>出典：TEAM BEYOND ホームページ</p> <p>「オンラインセミナー」の様子</p> </div> </div>

表 8.1.11-10(7) ミティゲーションの実施状況

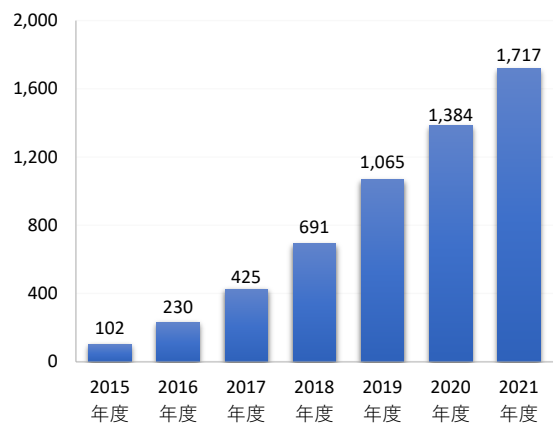
<p>ミティゲーション</p>	<p>・東京都では、従業員のスポーツ活動の促進に向けて優れた取組やスポーツ分野における支援を実施している企業等を「東京都スポーツ推進企業」として認定するとともに、認定企業の取組を紹介し、企業におけるスポーツ活動を促進することを目的に「取組事例集」を作成・公表している。</p>
-----------------	--

実施状況

東京都では 2015 年度(平成 27 年度)から、従業員のスポーツ活動の促進に向けた優れた取組や、スポーツ分野における支援を実施している企業等を「東京都スポーツ推進企業」として認定しており、認定企業数は 2021 年度(令和 3 年度)までに累計 1,717 社となった。

また、認定企業のうち、特に先進的な取組や波及効果のある取組をしている企業等を「東京都スポーツ推進モデル企業」として選定、表彰している。

認定された企業やモデル企業の取組を「取組事例集」として作成し、東京都のホームページで公表している。



出典：「スポーツ TOKYO インフォメーション 東京都スポーツ推進企業認定制度 (令和 3 年度)」(2021 年 12 月 15 日参照 東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ)

<https://www.sports-tokyo-info.metro.tokyo.lg.jp/company/>

「東京都スポーツ推進企業」の情報発信

出典：「スポーツ TOKYO インフォメーション 東京都スポーツ推進企業認定制度 (令和 3 年度)」(2021 年 12 月 15 日参照 東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ) を基に作成

<https://www.sports-tokyo-info.metro.tokyo.lg.jp/company/>

「東京都スポーツ推進企業」の累計認定数



出典：「スポーツ TOKYO インフォメーション 令和 2 年度東京都スポーツ推進モデル企業表彰式が開催されました。」(2021 年 12 月 15 日参照 東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ)

https://www.sports-tokyo-info.metro.tokyo.lg.jp/company/hyoshoshiki_2020.html

「東京都スポーツ推進モデル企業」の表彰式



出典：「スポーツ TOKYO インフォメーション 過去の推進企業」(2021 年 12 月 15 日参照 東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ)

<https://www.sports-tokyo-info.metro.tokyo.lg.jp/company/>

公表している「取組事例集」

表 8.1.9-10(8) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	・組織委員会は、都内の小中高生を中心に東京 2020 大会の観戦機会が得られるように子供の観戦促進に向けて「学校連携観戦プログラム」を進めている。
----------	---

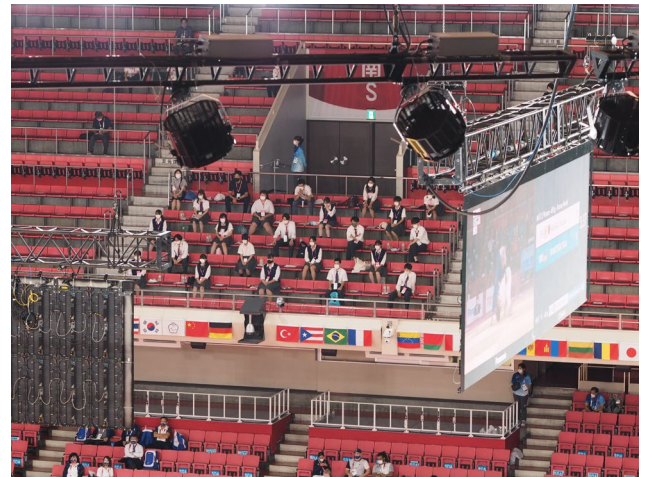
実施状況

東京都では、2016 年度(平成 28 年度)から都内全ての公立学校で実施している「東京都オリンピック・パラリンピック教育」の集大成として、都内の学校の子供たちが、東京 2020 大会の競技を、学校単位で直接観戦する機会を提供する学校連携観戦プログラムを計画し、観戦を希望する都内の全公立・私立学校に広く観戦の機会を提供する予定であった。その後の新型コロナウイルスの感染拡大の状況を踏まえ、観戦前後の健康観察、PCR 検査を受けられる機会の提供、貸切バスの利用、観客席における十分な距離の確保など、感染防止対策を徹底して実施し、都内 9 会場で 140 校 10,543 人の幼児・児童・生徒が参加した。また、最新テクノロジーを使用し、競技会場にいるような疑似体験ができるバリアフリーVR 観戦を特別支援学校で実施し、13 校の児童・生徒 296 人が観戦した。



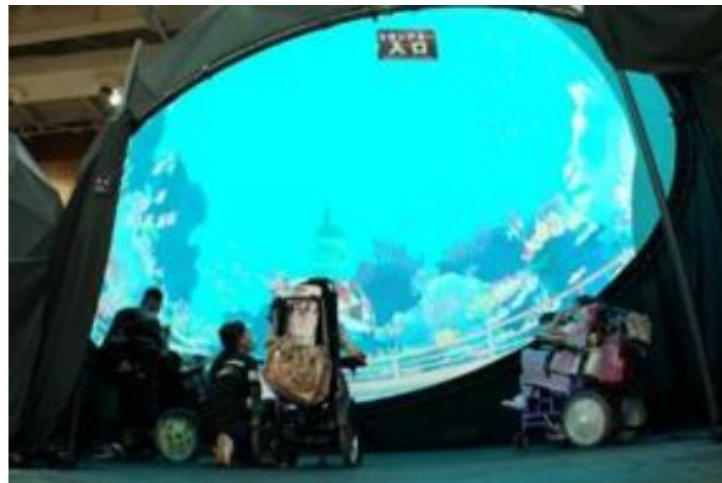
(東京都撮影)

学校連携観戦プログラムで観戦する児童



(東京都撮影)

学校連携観戦プログラムで観戦する生徒



出典：「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会 開催結果」(令和 3 年 12 月 24 日オリンピック・パラリンピック特別委員会資料)

特別支援学校で実施したバリアフリーVR 観戦の様子

表 8.1.9-10(9) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	<p>・東京都及び組織委員会では、東京都や競技会場が所在する関係自治体等に東京 2020 ライブサイトを設置し、競技会場外で誰もが大型スクリーンを利用した競技中継等を通じて競技観戦を楽しみ、大会の感動と興奮を共有できる機会を提供する。</p>
実施状況	<p>東京都及び組織委員会では、東京都や競技会場が所在する関係自治体等の 19 自治体 30 会場に東京 2020 ライブサイトを設置し、競技会場外で誰もが大型スクリーンを利用した競技中継等を通じて競技観戦を楽しみ、大会の感動と興奮を共有できる機会を提供する計画であったが、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を踏まえ、都内の東京 2020 ライブサイト等の見直しを行い、競技中継を中止した。</p> <p>東京都では、集客型のライブサイト・イベント等の見直しを行い、以下のデジタルを活用した情報発信を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅観戦に役立つ大会情報や、競技・選手などを紹介する特設 WEB サイト「みんなの東京 2020 応援チャンネル」を開設し、計 4 回のオンライン配信番組「みんな de 応援 オリ×パラ！東京 2020 みどころ配信局」を配信。 ・PC やスマートフォン等で気軽に視聴できるように「東京都パラリンピック応援サイト」を開設し、大会出場アスリート出演動画（5 本）、オンラインライブ配信番組（4 回）、パラリンピックマラソン応援・盛り上げ動画、WEB 上でのパラリンピック競技体験を配信。 <p>上記 2 つの WEB サイトを通じたオンライン配信番組・動画の視聴数累計は約 300 万回（7/20～9/6）であり、ライブサイト・パブリックビューイングの都内来場者想定数 285 万人を上回る水準であった。</p> <div data-bbox="167 907 794 1227"> </div> <p>出典：「特設サイト おうち de 楽しむ！「みんなの東京 2020 応援チャンネル」を開設します！」（令和 3 年 7 月 16 日東京都報道発表資料） 特設サイト「みんなの東京 2020 応援チャンネル」</p> <div data-bbox="847 898 1458 1227"> </div> <p>出典：「特設サイト おうち de 楽しむ！「みんなの東京 2020 応援チャンネル」でライブ配信を行います！」（令和 3 年 8 月 3 日東京都報道発表資料） 特設サイトのコンテンツの例 （シティキャストによる応援メッセージ映像）</p> <div data-bbox="167 1402 794 1715"> </div> <p>出典：「パラリンピックに向けた気運醸成の取組について」（令和 3 年 7 月 16 日東京都報道発表資料） 特設サイト「東京都パラリンピック応援サイト」</p>

表 8.1.9-10(10) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	<p>・組織委員会では、「東京 2020 大会 コミュニティライブサイトガイドライン」や「パブリックビューイング・ガイドライン」を策定し、コミュニティライブサイトの設置を計画している自治体等の支援を行うほか、パブリックビューイングの設定に当たっての支援を行う。</p>
実施状況	<p>組織委員会では、「東京 2020 大会 コミュニティライブサイトガイドライン」や「パブリックビューイング・ガイドライン」を策定し、コミュニティライブサイトの設置を計画している自治体等の支援を行うほか、パブリックビューイングの設定に当たっての支援を行い、東京 2020 大会の延期前の時点で 145 自治体 227 会場でのコミュニティライブサイトの申請があった。</p> <p>自治体等が開催するコミュニティライブサイトやパブリックビューイングは観客以外の人流対策として、多くの自治体等が中止又は規模を縮小したが、実施した自治体等は、コロナ対策の徹底に努めるとともに、大声を出さないよう、拍手や音出しグッズでの応援観戦やプラネタリウムでの「臨場感 LIVE ビューイング」映像体験など、各会場で工夫を凝らし来場者と一体となって大会を盛り上げた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="164 770 807 1133">  </div> <div data-bbox="842 730 1437 1122">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="164 1144 730 1265"> <p>出典：「広報やまなかこ 2021 年 8 月号 No. 466」 (山中湖村役場) 東京 2020 ライブサイトの実施状況の例 (山中湖村)</p> </div> <div data-bbox="842 1144 1406 1265"> <p>出典：「広報ごてんぼ 2021 年 9 月 5 日号 No. 1400」 (御殿場市) 東京 2020 ライブサイトの実施状況の例 (御殿場市)</p> </div> </div>

2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

ア. 予測した事項

(ア) スポーツ施設の充足

東京都は、東京 2020 大会の競技会場として、東京アクアティクスセンター、海の森水上競技場、有明アリーナ、カヌー・スラロームセンター、大井ホッケー競技場及び夢の島公園アーチェリー場の6施設について、将来にわたり有効に活用でき、障害の有無に関わらず全ての人々にとって利用しやすい施設となるよう整備した。さらに、臨海副都心・有明北地区を「有明レガシーエリア」とし、スポーツ、文化等による賑わいを創出していくこととし、東京 2020 大会で使用した仮設スポーツ施設等を活用したアーバンスポーツゾーンの形成に向けた検討を進めている。

障害のある方が気軽にスポーツやレクリエーションを楽しめるよう障害者専用スポーツの施設である東京都障害者総合スポーツセンター及び東京都多摩障害者スポーツセンターについては、設備を改修し、障害者アスリートのトレーニング環境の充実を図りリニューアルオープンした。

また、東京 2020 大会等に向け都立スポーツ施設が改修・休館していく中、「TOKYO スポーツ施設サポーターズ事業」を継続的に実施し、大学・企業等の協力を得ながら、都民のスポーツ環境の維持に努めてきた。

以上のことから、予測結果と同様に、スポーツ施設は拡充したものとする。

(イ) スポーツ活動の状況

東京都は、東京 2020 大会に向けて、パラリンピックの魅力を広く知っていただくため、2015 年度(平成 27 年度)から東京都パラリンピック体験プログラム「NO LIMITS CHALLENGE」を都内各地で展開し、パラリンピックの魅力を体験できるプログラムを提供した。また、「NO LIMITS CHALLENGE」の特別版である「NO LIMITS SPECIAL」を実施し、パラリンピック競技やアスリートの魅力を発信した。さらに、パラスポーツを通じて、みんなが個性を發揮できる未来を目指す TOKYO 発のチームである「TEAM BEYOND」のウェブサイトでメンバーを募集し、登録者に対し競技大会等の情報発信を行い、競技会場での観戦・応援やイベント等への参加を促進してきたほか、競技・アスリートの魅力や会場観戦の楽しさを「Be The HERO」、「FIND YOUR HERO」等の普及啓発映像を通して発信してきた。

組織委員会では、東京 2020 大会が開催までに全 55 競技を体験するプロジェクトである東京 2020 Let's 55 を主催し、2018 年(平成 30 年)から 2019 年(令和元年)にかけて計 8 回のイベントを開催した。さらに、2020 年(令和 2 年)10 月には、東京 2020 Let's 55 Virtual Experience として、アスリート視点の景色を体感できる VR 動画をウェブサイト上に公開し、東京 2020 大会が 1 年延期となった期間に観客への継続的なエンゲージメント機会を創出した。また、スポーツ等、参加者自らが体験・行動し、レガシーを形成することで未来につなぐプログラムである「東京 2020 参画プログラム」を展開し、このような各種イベント等の開催プログラムを「東京 2020 参画プログラム」として認証することで、スポーツイベント等の発信や推進を行った。

一部のスポーツイベントは、新型コロナウイルス感染症拡大の観点から開催中止や延期となったものもあったが、集客型からオンライン開催へと転換するイベントや動画配信等を提供するイベントも見られた。また、東京 2020 大会の 1 年延期に伴い、これらのオンライン等によるイベントへの参画の機会を延期期間中も継続的に創出できた。

東京都では、2016 年度(平成 28 年度)から都内全ての公立学校で実施している「東京都オリンピック・パラリンピック教育」の集大成として、都内の学校の子供たちが、東京 2020 大会の競技を、学校単位で直接観戦する機会を提供する学校連携観戦プログラムを計画し、観戦を希望する都内の全公立・私立学校に広く観戦の機会を提供する予定であった。大会期間中は、観戦前後の健康観察、PCR 検査を受けられる機会の提供、貸切バスの利用、観客席における十分な距離の確保など、感染防止対策を徹底して実施し、都内 9 会場で 140 校 10,543 人の幼児・児童・生徒が参加した。また、最新テクノロジーを使用し、競技会場にいるような疑似体験ができるバリアフリーVR 観戦を特別支援学校で実施し、13 校の児童・生徒 296 人が観戦した。

東京都及び組織委員会では、東京都や競技会場が所在する関係自治体等の 19 自治体 30 会場に東京 2020 ライブサイトを設置する計画であった。また、組織委員会では、コミュニティライブサイトやパブリックビューイングの設置を計画している自治体等を支援し、多数の申請があった。都内全ての東京 2020 ライブサイトの競技中継の中止、自治体等が開催するコミュニティライブサイトやパブリックビューイングについても観客以外の人流対策として、多くの自治体等が中止又は規模を縮小した。一方、東京都では、都内全ての東京 2020 ライブサイト・イベント等の見直しを行い、特設 WEB サイト「みんなの東京 2020 応援チャンネル」及び「東京都パラリンピック応援サイト」を開設し、デジタルを活用した情報発信を行うなど、オンラインでの応援施策を実施した。これらの WEB サイトを通じたオンライン配信番組・動画の視聴数累計は、ライブサイト・パブリックビューイングの都内来場者想定数を上回る水準であった。

東京 2020 大会期間中には、東京スポーツスクエアにおいて、大会関連のパネルや動画、シティキャストからの応援メッセージの展示等を行い、東京大会の魅力を発信した。また、パラリンピックギャラリー銀座を開設し、競技体験、大会情報パネル、アスリートの映像や写真展示など、様々な企画を実施したほか、パラ競技を中心にスポーツ体験コーナー等のコンテンツを設置した 2020 FAN PARK / 2020 FAN ARENA を都内在住者かつ人数を限定して公開した。

以上のことから、当初の計画や取組に変更が生じたものの、オンライン等を活用した新たな参加機会を創出することにより、予測結果と同様に、東京 2020 大会を契機としたスポーツ活動の機会は充実したものとする。